

- 問1 北海道やその周辺地域において、樹皮を加工した繊維で織られた「アットゥシ」と呼ばれる伝統的な衣服や、独自のアイヌ語といった文化を継承してきた、法律によって日本の先住民族と明記されている人々を何と呼びますか。 (2026年 埼玉県公立入試 類似)
1. 琉球民族                      2. 渡来人                      3. 大和民族                      4. アイヌ民族
- 問2 北海道にはその土地の自然環境や地形に由来する地名が多く残されています。例えば、世界自然遺産にも登録されている「知床（しれとこ）」という地名は、ある先住民族の言葉で「大地の先」を意味する「シリエトク」という言葉に由来しています。この独自の言語や文化を持ち、北海道や千島列島などに古くから住んでいる民族の名称を答えなさい。 (2024年 山形県公立入試 類似)
1. 渡来人                      2. 琉球民族                      3. アイヌ民族                      4. 蝦夷（えみし）
- 問3 青森県にある三内丸山遺跡の特徴を説明した新聞記事において、この遺跡が「縄文時代の生活観を大きく変えた」とされる理由として、当時の人々の暮らしの様子を正しく説明しているものはどれか。 (2025年 北海道公立入試 類似)
1. 青銅器や鉄器などの金属器が普及し、身分の差が生まれるとともに大規模なクニ同士の争いが起きた。
2. 大型掘立柱建物跡や多数の竪穴住居が見つかり、長期間にわたる大規模な定住生活が行われていた。
3. 本格的な稲作が始まり、食料を蓄えるための高床倉庫や、周囲を堀で囲んだ環濠集落が形成された。
4. 打製石器を用いてナウマン象やヘラジカなどの大型動物を追いながら、移動生活を繰り返していた。
- 問4 約1万年前に地球の温暖化が進んで海面が上昇し、日本列島が形成された時期の生活の様子として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 山口県公立入試 類似)
1. 強力な支配者が現れ、自らの権威を示すために巨大な古墳を築き、その周囲に埴輪を並べるようになった。
2. 大陸から伝わった稲作が本格的に広まり、収穫した米を保存するために高床倉庫が作られるようになった。
3. 地面を掘り下げた竪穴住居に住み、弓矢を用いた狩猟や木の実の採集、魚を中心とした生活を営んでいた。
4. 各地で大規模な灌漑施設が整えられ、太陽暦を用いて農作業の時期を管理する生活が始まった。
- 問5 青森県に位置する縄文時代最大級の集落跡についての記述です。この遺跡では、直径約1メートルもの栗の木の柱を用いた巨大な掘立柱建物跡や、当時の人々が居住した大型のたて穴住居跡が数多く発見されています。この遺跡の名称として正しいものを選びなさい。 (2024年 福島県公立入試 類似)
1. 岩宿遺跡                      2. 吉野ヶ里遺跡                      3. 三内丸山遺跡                      4. 登呂遺跡
- 問6 佐賀県の東名遺跡（ひがしみよういせき）では、約8千年前の地層から植物の繊維で編まれた国内最古級の「編みかご」が発見されました。このような発見から推測される、当時の人々の生活習慣や信仰に関する記述として正しいものを次の中から選んでください。 (2019年 佐賀県公立入試 類似)
1. 有力な王が各地を支配しており、その権力を象徴するために巨大な前方後円墳が造られた。
2. 仏教の教えが広まり、国家の安泰を願って各地に国分寺や国分尼寺が建立された。
3. 自然の恵みに頼った生活を送っており、魔よけや豊かな収穫を祈るために土偶（どぐう）が作られた。
4. 大規模な灌漑設備を整えて稲作を行い、村同士の争いに備えて周囲に堀を巡らせた環濠集落で暮らした。
- 問7 縄文時代の遺跡である貝塚の周辺から発見される、表面に縄目などの特徴的な文様が施された道具について、その主な使用目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2019年 群馬県公立入試 類似)
1. 大陸から伝わった青銅器や鉄器を加工するための、高温の炉として用いられた。
2. 亡くなった人を埋葬する際に、副葬品として納める祭祀専用の道具として用いられた。
3. 採取した木の実などの食料を煮炊きしたり、保存したりするために用いられた。
4. 収穫した稲を長期間蓄えるための、貯蔵専用の器として主に用いられた。
- 問8 石器時代の道具や生活の変化について述べた文として、縄文時代の特徴を正しく説明しているものはどれですか。 (2018年 徳島県公立入試 類似)
1. 本格的な水田稲作が広まったことで、石包丁を用いた穂首刈りが一般的になった。
2. 氷河期が終わり温暖な気候になる中で、石をみがいた磨製石器や土器が使われ始めた。
3. 青銅器や鉄器が大陸から伝わり、石器は次第に祭祀用の道具へと変化していった。
4. マンモスなどの大型の獣を追うため、移動生活に適した打製石器のみを使い続けた。
- 問9 縄文時代の遺跡から多く発見される、当時の人々が定住生活を始めたことを示す遺構について、地面を掘りくぼめた床に柱を立て、屋根をかけた住居を何と呼ぶか答えなさい。 (2017年 茨城県公立入試 類似)
1. 高床倉庫                      2. 書院造                      3. 寝殿造                      4. 竪穴住居
- 問10 縄文時代につくられた素焼きの人形で、豊かな収穫や病気の回復、魔除けなどを祈るために用いられたとされる遺物を何といいいますか。 (2026年 熊本県公立入試 類似)
1. 石包丁                      2. 土偶                      3. 銅鐸                      4. 埴輪
- 問11 縄文時代に作られた、まじないや豊かな収穫、安産などを祈るために用いられたとされる、人や動物をかたどった土製品を何といいいますか。 (2019年 山形県公立入試 類似)
1. 埴輪                      2. 土偶                      3. 青銅器                      4. 石包丁
- 問12 三内丸山遺跡の調査結果から推測される、縄文文化の生活や社会の様子について正しく説明しているものはどれですか。 (2024年 福島県公立入試 類似)
1. 前方後円墳などの巨大な墳墓が築かれ、広域を支配する強力な王権が誕生していた。
2. 豊かな自然環境を背景に、狩猟・採集・漁労を行いながら大規模な定住生活を営んでいた。
3. 大陸から青銅器や鉄器が伝わり、武器や祭具として使用されることで集落間の争いが激化した。
4. 大規模な灌漑設備を用いた水田稲作が普及し、食料を蓄えるための高床倉庫が主流となった。
- 問13 日本の古代文化における「土偶」と「はにわ」の違いについて、時代背景と目的の観点から説明したものとして正しいものはどれですか。 (2026年 千葉県公立入試 類似)
1. 土偶は写実的な人物像として奈良時代に完成したが、はにわは縄文時代に土器の蓋として実用的に使われていた。
2. 土偶は弥生時代に大陸から伝わった青銅器の一種であるが、はにわは飛鳥時代に仏教とともに伝わった石像の技術で作られた。
3. 土偶は縄文時代に作られ、豊穡や魔除けを祈る呪術的な道具であったが、はにわは古墳時代に作られ、古墳を飾り立てるためのものであった。
4. 土偶は権力者の死を悼むために古墳の内部に納められたが、はにわは狩猟の成功を願って森の入り口に置かれた。